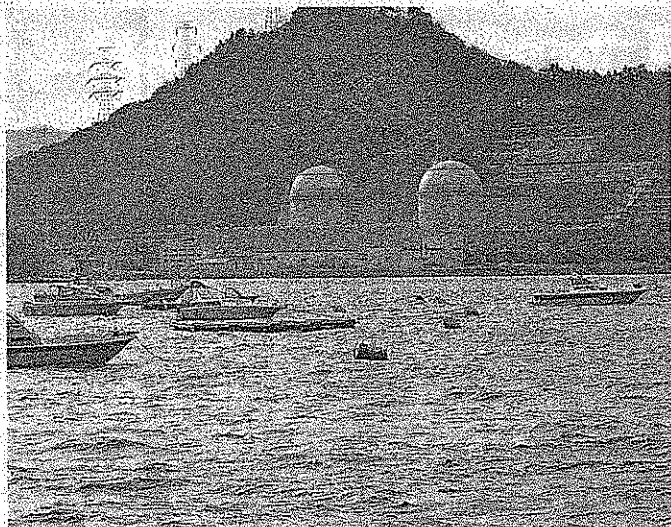


住民期待と不安交錯

高浜原発 審査合格



対岸の音海地区から見た高浜原発3、4号機。住民の生活圏とは、海を挟んで目と鼻の先にある＝17日、高浜町音海

「活気再び」「避難できるか」

舞鶴では説明求める声も

原子力規制委員会が関西電力高浜原発3、4号機の審査書を承認し、再稼働が現実味を帯びてきた。地元高浜町民は経済活性化への期待とともに、「万一」の事故時の不安を口にしている。原発から60キロ圏内の京都府舞鶴市にも、行政や事業者に対し、十分な説明を求める声が続出している。

(牧野将寛、谷口香馬)一一面に本記

「本当にこれで良かったら、30年以上、町音海地区に住む60代の主婦が、4号機が目の前。原発建設によって道路整備が進むなど恩恵を受けてきたが、東京電力福島第一原発事故の記憶が消えない中、再稼働の足音が近づくと状況に「できれば再稼働はしてほしくない」

でも、地元の仕事がなくなるのも、複雑な気持ち」と漏らす。同地区から国道27号に出る道路は一本のみ。事故の際は渋滞する恐れもある。同地区の80代女性は「高浜町もちゃんとしてくれることができれば、再稼働はいい」と不安を感じている。一方、「原発が動かなければ、人の出入りがずいぶん減ってしまった」と話すのは、同町内の飲食店で働く女性(58)。「原発が作業しているお客さんも多い。やっぱり再稼働して、たくさんの人に来てほしい」と期待する。

◆◆◆
高浜原発から5キロ圏内には、舞鶴市松尾地区が含まれる。同地区の50代男性は「もし高浜で事故が起きたら、福島同様に自分たちもここにいられなくなると思う。ただ、舞鶴市内の多くの人が福井県の原発で働いている。原発の恩恵は大きい」。一概に「再稼働はしてほしくない」と強硬な意見を述べている。再稼働の時期については「いつまでということはない」と述べた。

◆◆◆
30キロ圏内の同市内に住む男子高専生(20)は「事故が起きたら逃げなきゃ」と思いはあるが、そこまで危機感があるわけではない。正直、教員が原発の「二つ」と冷静に受け止める。ただ「早急に再稼働に突き進むことは反対。福島事故のニュースは今も頭に残っている」と国に対する不信感を口にした。

来春までに同意判断を

再稼働 高浜町長、町会へ要望

高浜町の野瀬豊町長は17日、高浜原発3、4号機再稼働の地元同意の判断について「(東京電力福島第一原発事故以降の)4年間を経験された町議の中で、(再稼働への)同意の判断が行われるのが一番妥当」と述べ、町議選がある来春までに町会に一定の方向性を示してほしいとの考えを示した。

野瀬町長は自身の判断については「町会の議論もあり、重ね、(来春までの)議員の

日々の中での活動の中で聞いた意見などを総合的に判断する」と強調。再稼働の時期については「いつまでということはない」と述べた。

同町会の場輝夫議長は「野瀬町長から要請があれば、2月定例会を待たずに臨時議会での判断することになると思う」と述べた。

また原会長の田村康夫議長も「安全安心を大前提に議論を重ね、(来春までの)議員の

に「反対とは言えない」と揺れる気持ちも吐露。「行政や事業者には、高浜原発と目と鼻の先のわれわれにもしっかりと説明してもらいたい」と強く求めた。

原会反対派は「規制委員は、原発事故における住民避難について一切審査していない。国民を守るという役割が果たされていない」と批判した。また「まだ完成していない(原子炉格納容器の損傷を防ぐ)フィルター付きペントなどの問題が膿み去りになっているのに、再稼働に向かっていく」と危機感を募らせた。

共産党の佐藤正雄県議は「規制委員の審査に合格した」とと、安全証明とは全くの別物で、すぐに動かせばよいというわけではない。8月の県原子力防災総合訓練でも、安定ヨウ素剤の配布などの実効性について問題があった」と反発した。(堀英彦)

課題が山積
県内反対派強い懸念
関西電力高浜原発3、4号機の審査書を原子力規制委員会が承認したことに、福井県内の原発反対派は「安全や住民避難などの観点で懸念が山積している」と強い懸念を示した。